

2025年6月に策定した「国土交通省環境行動計画」に係る実行計画として新たに「グリーンインフラ推進戦略2030」を策定。
本戦略の計画期間を2030年度までとし、定義や効果、特徴等を整理した上で国土交通省の取組を体系的に整理し2030年度までに目指す成果を設定。

グリーンインフラの定義・効果

グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。
これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。



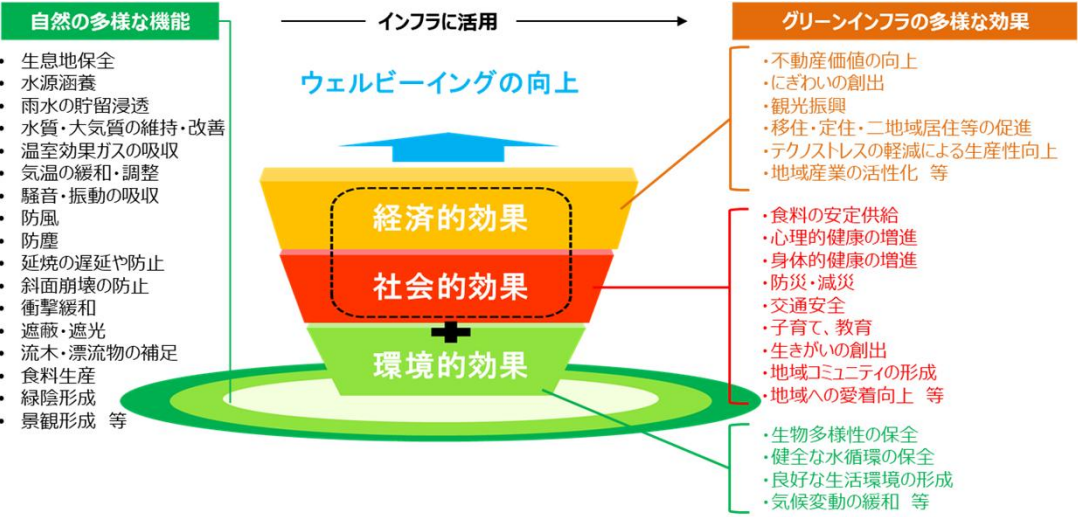
戦略的な計画



持続的な維持管理



幅広いステークホルダー



生物多様性の保全



良好な生活環境



避難場所・防災拠点



暑熱対策



雨水貯留浸透



魅力的な景観



コミュニティ形成



不動産価値の向上

「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現を図り、2050年に向けて「自然共生社会」の実現を目指す。

グリーンインフラの更なる実装に向けた分野横断的な環境整備

- ①国民的な機運・理解の醸成 ②多様な効果の見える化 ③官民の取組を促進する環境整備 ④資金調達の円滑化 ⑤新技術・DXの活用 ⑥国際展開



グリーンインフラ官民連携プラットフォーム



GREEN x EXPO 2027

社会課題解決に向けたグリーンインフラの実装

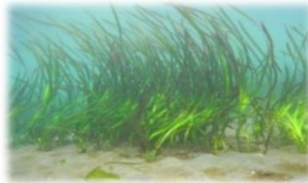
- ①持続的で快適な都市・生活空間の形成 ②防災・減災 ③暑熱対策 ④生物多様性の確保 ⑤地域経済の活性化 ⑥温室効果ガスの削減 ⑦循環型社会の形成



都市緑化・道路緑化



流域治水との連携



ブルーインフラ